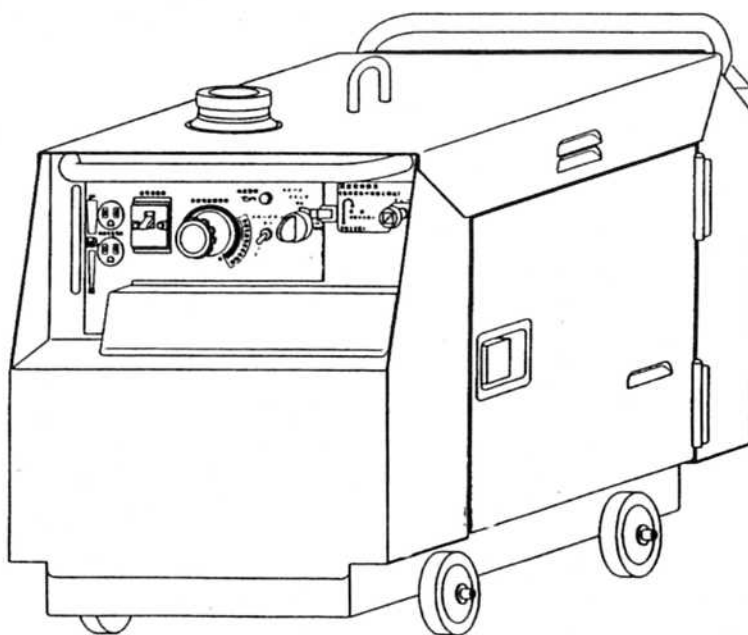


RYOBI®

エンジンウエルダ

EWG-323DX

取扱説明書



●改良のためお断りなく仕様、外観等を変更することがあります。

リョービの製品をお買い上げくださりましてありがとうございました。

万一、機械の取扱いを誤りますと
故障や事故の原因になりますので、
ご使用前に必ずお読みください。

◆この取扱説明書は、御購入のエンジン溶接機を末長くご愛用いただくために正しい取扱いと簡単なメンテナンスについて説明してあります。

◆特に「必ずお守りください」と、文章中の **注意!**、**危険!** はよくお読みください。

◆使用中にいつでもご覧いただけるよう、わかりやすい場所に保管してご活用ください。

◆エンジンの詳細な取扱い、整備方法につきましては、別冊のエンジン取扱説明書をご覧ください。

ご不明な点、お気づきの点、また整備内容について、詳しくお知りになりたいことがありましたら何なりとご相談ください。

相談窓口

担当営業所

サービス工場



御購入の機械は

型 式： EWG-323DX

製造番号：

です。

目 次

1. 安全作業と正しい取り扱い	2
2. 仕 様 諸 元	3
3. 付 属 品	4
4. 操 作 部 の 名 称	5
5. お 使 い に な る 前 に	6
5-1 必ずお守りください	6
5-2 溶接電源について	7
5-2-1 溶接ケーブルの接続	
5-2-2 極性利用	
5-2-3 溶接ケーブルの選択	
5-2-4 溶接電流の調整	
5-2-5 スローダウン装置	
5-2-6 使用率	
5-2-7 遮光に注意!	
5-3 交流電源について	10
5-3-1 負荷装置の接続	
5-3-2 スローダウン装置	
5-3-3 周波数の切換	
5-3-4 漏電遮断器	
6. 運 転 操 作	12
6-1 始業点検「毎日点検・補給」	12
6-1-1 エンジンオイル量の点検	
6-1-2 燃料量の点検	
6-1-3 バッテリー液量の点検	
6-2 運転方法	13
6-2-1 始動方法	
6-2-2 停止方法	
6-2-3 非常停止装置	
6-2-4 機械の異常	
7. 定 期 点 検 と 整 備	15
7-1 エンジンオイルの交換	15
7-2 エアクリーナエレメントの清掃・交換	15
7-3 燃料ストレーナの清掃	15
7-4 燃料タンク内のドレン排出	16
7-5 点火プラグの点検	16
7-6 バッテリー比重の点検	16
7-7 その他の点検整備	17
7-8 主要点検項目一覧	17
8. 長期間使用しないとき	17
9. 各部の故障原因と対策処置	18
付図1. 発 電 機 結 線 図	19
付図2. エ ン ジ ン 結 線 図	20
付図3. 外 形 図	21

1. 安全作業と正しい取り扱い

ここには、安全な作業と機械をいつまでもお使いいただく上で特に重要なポイントをまとめてあります。よく読んで安全、快適な作業にお役立て下さい。



取扱説明書

取扱説明書をよく読んで、正しく、安全にお使い下さい。また他人に貸したり、使用させる場合は、取り扱いをよく説明し、あらかじめ「取扱説明書」を読むよう必ず指導して下さい。



過負荷に注意

過負荷運転は、機械の寿命を著しく短くします。容量、性能に見合った負荷でお使いください。また、溶接負荷と交流負荷の同時使用はできません。

(詳しくは本書に有ります)



周波数と電圧を確かめて

使用周波数や電圧をまちがえると、発電機や負荷が故障する事があります。運転前に必ず確かめてください。



機械は水平に

床面のしっかりした水平な所に置いてください。また周囲1m以内には障害物が無いようにしてください。



屋内配線への接続は厳禁

屋内配線への接続は、法規に触れるだけでなく、感電事故や発電機破損の原因となり大変危険です。絶対におやめください。



雨中使用禁止

雨の中では使用しないでください。またホース等で直接水をかけないでください。感電事故や機械故障の原因となります。



必ず接地してください

漏電事故防止のため、必ず漏電遮断器接地端子及び、機械外箱を接地してから運転してください。



異常時には直ちに停止

音、振動、熱、煙、においなど異常を発見したら直ちに運転を止め、原因を取り除いてください。



感電に注意

運転中は出力端子には絶対に触らないでください。特に手が濡れている時は大変危険です。結線などの為、端子部に触れるときは、一旦機械を止めてください。



点検・整備は万全に

内部のホコリや湿気を取り除き、常に機械はキレイにしておいてください。また、取扱説明書をよく読んで、保守・点検は万全に行ってください。



接続は確実に

傷んだケーブルや、接続ネジの締付が不十分ですと、機械を破損したり、感電の原因となります。ケーブルの傷みは修理し、確実に接続ネジを締め付けて下さい。



火災事故防止の為に

燃料、オイルなどは可燃物です。機械に火気を近づけたり、給油時のくわえタバコや、運転中の給油は絶対におやめください。また周辺に燃えやすい物を置かないでください。



換気 に 注意

エンジンの排気ガス及び、溶接で発生するガスは人体に有害です。トンネル、屋内など通気の悪い場所で運転するときは、十分な換気を行ってください。また、通行人、民家などに排気が向かないようにしてください。中毒、火災事故の原因となります。

2. 仕様諸元

型 式 EWG-323DX		
出 力	溶接電源	特 性 定 格 出 力 [kw] 3.58 定 格 電 流 [A] 140 定 格 電 圧 [V] 25.6 定 格 使 用 率 [%] 40 定 格 回 転 数 [rpm] 3600 電 流 調 整 範 囲 [A] 50 ~ 150 適 用 溶 接 棒 [mm] $\phi 2.6 \sim \phi 3.2$
	交流電源	定 格 出 力 [kVA] 3.2/3.5 定 格 電 圧 [V] 100/110 定 格 電 流 [A] 32 相 数 単 相 周 波 数 [Hz] 50/60 力 率 1.0
発 電 機		型 式 ブラシレス、回転界磁型同期発電機 定 格 回 転 数 [rpm] 3000/3600 極 数 2 絶 縁 F 種
寸法および重量		全 長 [mm] 829 全 幅 [mm] 504 全 高 [mm] 666 乾 燥 重 量 [kg] 135
燃料タンク		容 量 [ℓ] 約 7.5
エ ン ジ ン		名 称 株式会社クボタ GH-280DG-RV 形 式 単気筒4サイクル空冷立型OHV ガソリンエンジン 気筒数-内径×行程 [mm] 1-79×56 総 排 気 量 [cc] 274 定 格 出 力 [PS/rpm] 7.0/3600 調 速 装 置 遠心重錘式 起 動 方 式 セルモータ式 バ ッ テ リ 26A19L 燃 料 無鉛レギュラーガソリン 使 用 潤 滑 油 SAE#30相当粘度 (APIサービス区分SD級以上) 潤 滑 油 量 [ℓ] 約 0.9

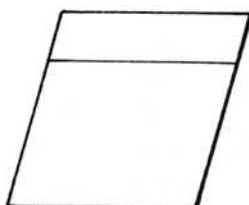
3. 付属品

以下の物が付属されています。

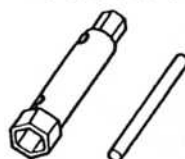
- | | | |
|------------------------|-------|----|
| ① 取扱説明書 | ----- | 1冊 |
| 本書 | | |
| ② エンジン取扱説明書 | ----- | 1冊 |
| ③ パーツリスト | ----- | 1冊 |
| ④ 標準工具（プラグレンチ、回し棒、工具袋） | ----- | 1式 |
| ⑤ スタータキー | ----- | 2個 |
| スペアキーが付属されています。 | | |
| ⑥ 接地棒 | ----- | 1本 |



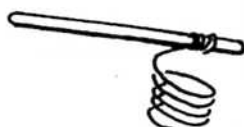
工具袋



プラグレンチ、回し棒



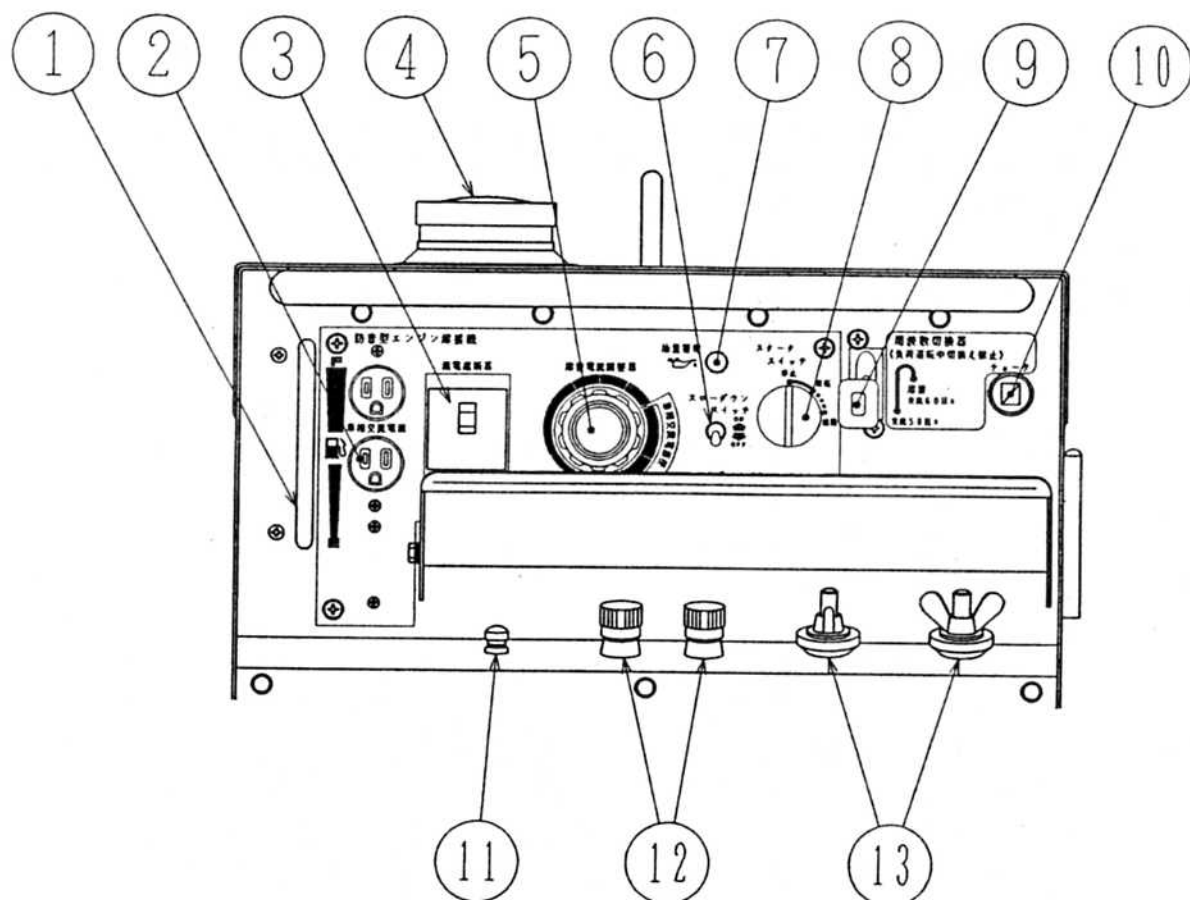
接地棒



スタータキー×2



4. 操作部の名称



番号	部 品 名 称
1	燃料レベルゲージ
2	単相交流出力コンセント (15A×2)
3	漏電遮断器
4	燃料タンク (7.5ℓ)
5	溶接電流調整器
6	スロースタートスイッチ
7	油量警報灯
8	スタータスイッチ
9	周波数切換器
10	チョークノブ
11	漏電遮断器用接地端子
12	単相交流出力端子 (32A)
13	溶接出力端子

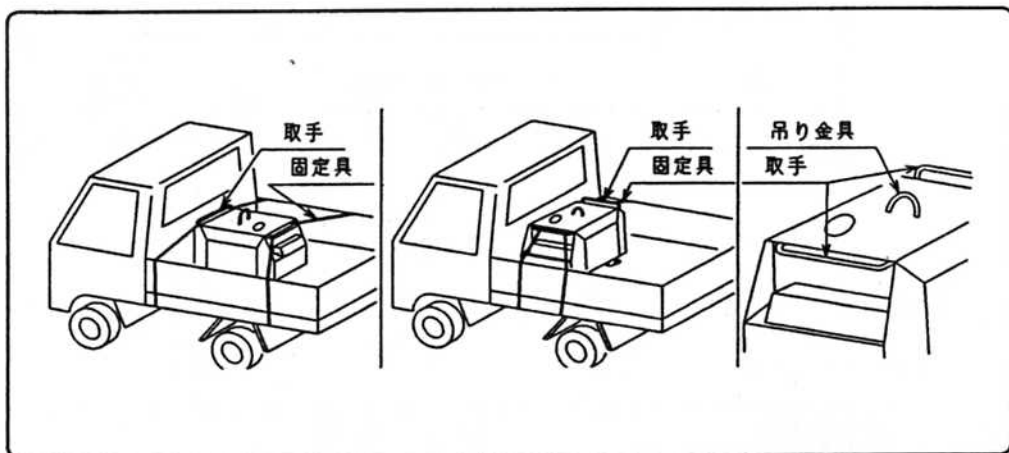
5. お使いになる前に

5-1 必ずお守りください

本機は、工場を出荷されるまでに、厳重な検査が行われていますが、機械の新しい時は、無理な使い方をしますと、寿命を縮めることになります。はじめの50時間位は慣らし期間として、特に丁寧に取扱って下さい。

機械の運搬について注意

- 作業現場から移動搬出する場合には、必ずトラックなどに積みこんで運搬してください。
- 機械をトラックなどに積載するときは、図のように、前後の取手を用いてしっかりと固定してください。
- 車輪の輪止めを確実に行って下さい。
- 積みおろしは、ルーフパネル中央部の吊り金具を使用し、取手は使用しないでください。
(取手は吊り上げに耐える強度はありません)

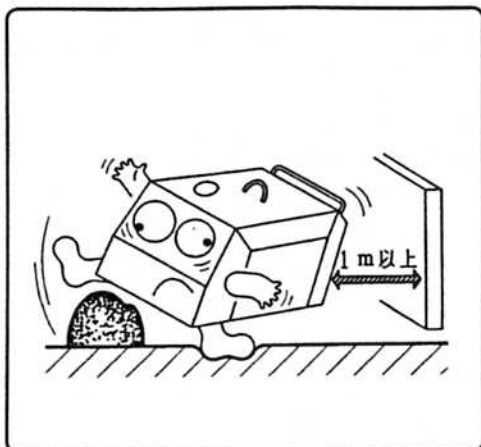


設置上の注意

- 水平で床面のしっかりした場所でお使いください。やむを得ず、傾斜地で使用する場合は許容傾斜角度は、前後左右ともに20°迄です。
- 周囲温度が40℃を越える場所や湿気の多い場所での使用は避けてください。
- ほこりが多い場所、有害ガスや爆発性のあるガスが含まれる場所での使用は避けてください。
- 点検整備に必要なスペースを周囲に確保してください。
- 排気ガス出口を、人や人家に向けてください。
- 溶接のスパッタや、グラインダの火花等が機械の吸排気口に入らない場所に設置してください。

運転時の注意

- 運転中又は停止直後などに、エンジンマフラー排気出口、などの高温部には絶対に手を触れないで下さい。
- 安全と騒音防止のため、又、ドアを閉めて運転する冷却構造に設計されていますので、運転中は必ずドアを閉めてご使用ください。
- 運転中は機械の周囲1m以内に障害物を置かないでください。
- 火災防止のため機械に火気を近づけたり給油時のくわえタバコや、運転中の給油は絶対おやめください。
- 機械の周辺に燃えやすい物を置かないでください。また、たき火などのそばでは運転しないでください。



5-2 溶接電源について

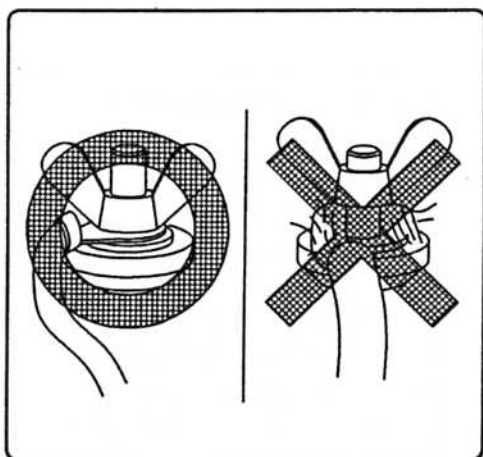
注意! 溶接電源と、交流電源は同時使用できません。

5-2-1 溶接ケーブルの接続

制御パネルの下にある溶接出力端子に、溶接ケーブルを確実に接続してください。

注意! ケーブルは、皮をむいて線を輪にして接続して使用すると、接触不良のために発熱し出力端子を焼損したり、裸ケーブルが機体に接触して思わぬ事故を起こすことがあります。
ケーブル先端には必ずターミナルを圧着して、出力端子に確実に締め付けてご使用ください。

注意! ケーブルの接続は、端子間のショート恐れがありますので必ずエンジンを停止して行ってください。



5-2-2 極性利用

溶接出力端子には(+) (-)の表示があります。作業内容によって極性を選択して使用してください。極性利用の一例を第1表に示します。

第1表 極性利用の一例

極性	つなぎ方	適用例
正極性	(+) …アース(母材) (-) …溶接棒ホルダ	構造用鋼材および厚板溶接 エアーガウジング 銅合金のアーク溶接
逆極性	(+) …溶接棒ホルダ (-) …アース(母材)	肉盛溶接 薄板のアーク溶接 ステンレス鋼のアーク溶接

5-2-3 溶接ケーブルの選択

溶接ケーブルは長くするほど、また電流が大きいほど太いものを使用しなければなりません。使用する溶接電流とケーブルの長さによって、第2表から適当な太さのケーブルを準備してください。

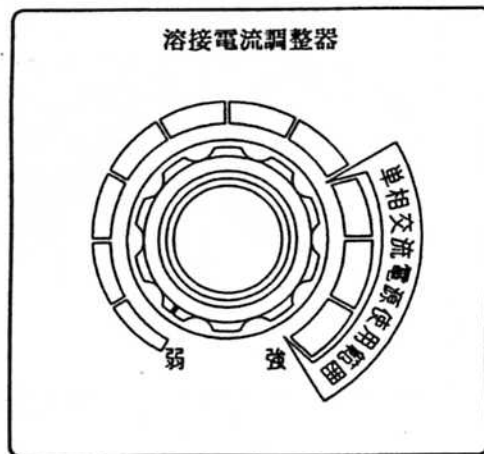
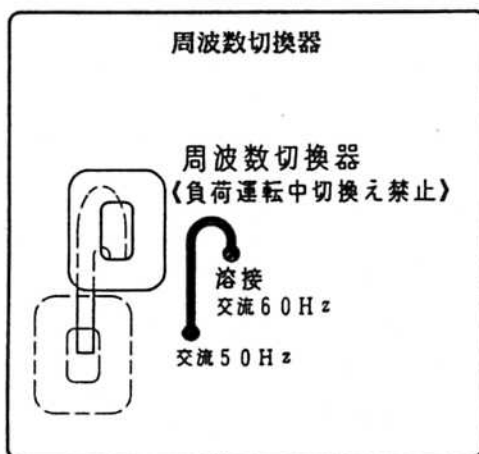
第2表 溶接ケーブルの長さ及び太さと溶接電流の関係 (単位: mm²)

溶接電流	ケーブルの往復長さ (m) (+側ケーブルと-側ケーブルの長さの和)					
	20	30	40	60	80	100
100 (A)	14	14	14	22	30	38
150 (A)	22	22	30	38	50	60

5-2-4 溶接電流の調整

周波数切換器を「溶接 (60Hz)」にしてください。

溶接電流の調整は「溶接電流調整器」によって行ってください。「溶接電流調整器」は右に回すと電流が増加します。

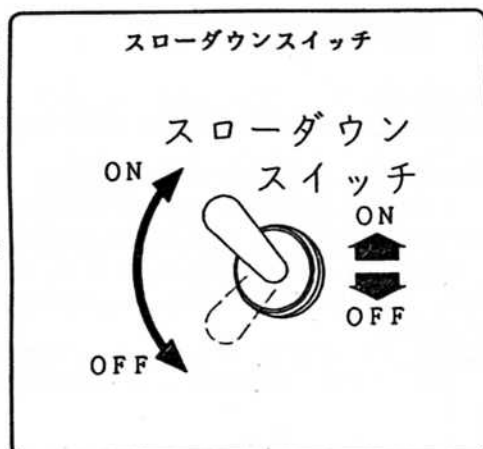


5-2-5 スローダウン装置

この装置は、機械を使用している時に、無負荷運転時の騒音低減や燃料の節約等を目的として装備されています。

スローダウンスイッチをONの位置にすると溶接作業中に溶接機を運転したまま、溶接を中断すると自動的に一定時間（約9～10秒）経過後、エンジンが低速回転になります。

また、溶接作業を再開する場合は、溶接棒を母材に接触させることでエンジンは高速回転になり円滑な溶接作業ができます。



5-2-6 使用率

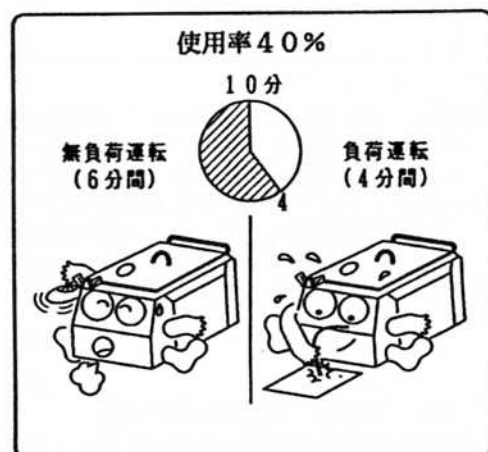
どんな人でも休みなく働き続けたらバテてしまいます。本機の溶接電源は仕事の内容と経済性から、連続使用できる設計になっていません。そこで溶接機には使用率という規格があります。

使用率とは、10分間周期における負荷時間の割合です。この機械の定格使用率40%とは、4分間負荷運転（溶接作業）して6分間無負荷運転をすることです。

実際の使用電流によって許容使用率は、次の表3のように変わります。許容使用率を越えて使用しますと、故障の原因となりますので過負荷にならない様ご注意ください。

表3 使用電流と許容使用率

電 流 (A)	許容使用率 (%)
90以下	100
100	80
115	60
140	40
150	30



5-2-7 遮光に注意！

溶接アークは、特に紫外線が強いので、十分に遮光度を有する遮光ガラスの付いたヘルメットまたは、溶接用手持面をご使用ください。

また、首筋・顔面・手・足等も、アーク光やスパッタから完全に保護してください。

表4 溶接電流と遮光度

溶接電流 (A)	100以下	100以上
遮光ガラス	No. 10	No. 11

5-3 交流電源について

注意! 必ず漏電遮断器を【OFF】にしてから接続してください。

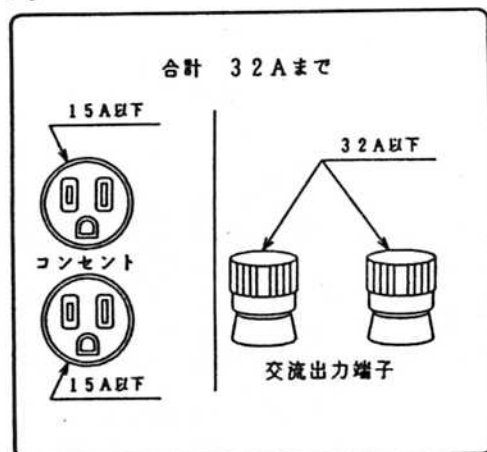
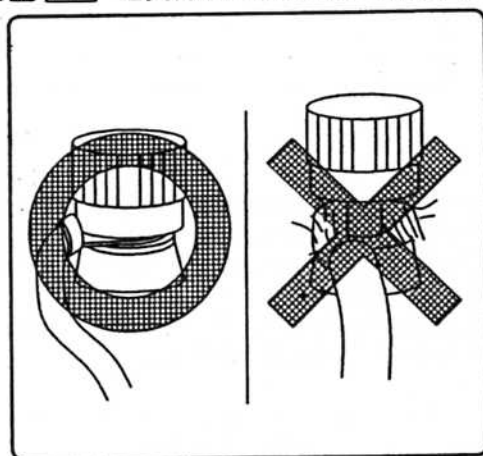
5-3-1 負荷装置の接続

コンセントを使用する時はプラグで接続し、交流出力端子を使用するときはターミナルをコードの先端に圧着して、出力端子に確実に締め付けて下さい。

一個のコンセントの容量は15Aで、2個の合計で30Aまでご使用になれます。

また、交流出力端子のみで32Aまでご使用になれます。

注意! 過負荷にならないようご注意ください。



5-3-2 スローダウン装置

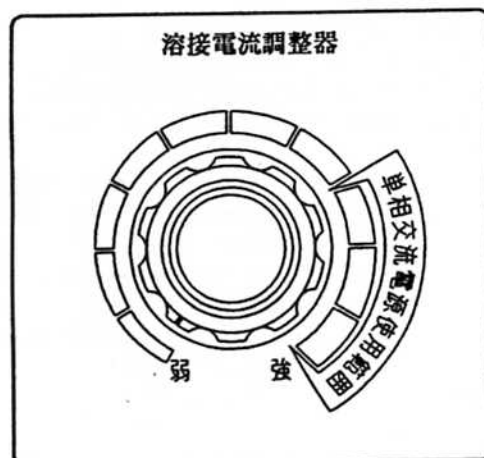
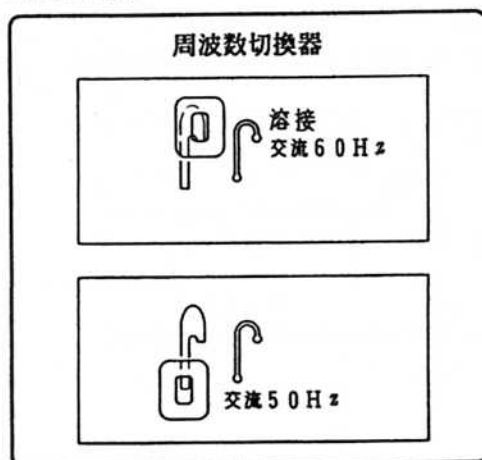
本機は交流電源もスローダウン機能が使えます。

※100W以上の交流負荷（照明器具、電動工具、水中ポンプ等）を使用する場合、スローダウンスイッチを「ON」にしてお使いください、溶接作業時と同様に無負荷になると自動的にエンジンは低速回転になり、負荷を再度使用するとエンジンは高速回転になります。

※100W未満、またはマグネットスイッチ付の交流負荷等軽負荷を使用するときは、スローダウンスイッチを「OFF」側にしてお使いください。（「ON」のままですと低速になる場合があります。）

5-3-3 周波数の切替

周波数切換器により、交流50Hz、60Hzを選択してください。また、溶接電流調整器のつまみを単相交流電源使用範囲にセットしてください。この範囲外では電圧が低く交流電源が使用できません。



5-3-4 漏電遮断器

(1) 漏電遮断器について

本機は、運転中使用負荷の絶縁不良等により生じた漏電を検知し、交流出力回路を遮断することにより感電等の事故を防ぐために漏電遮断器を装備しています。但し、使用方法を誤りますと危険な状態になることがありますので、以下をよく読んで作業されますようにお願い致します。

本機の漏電遮断器の定格感度電流は30mA、動作時間は0.1秒以内です。

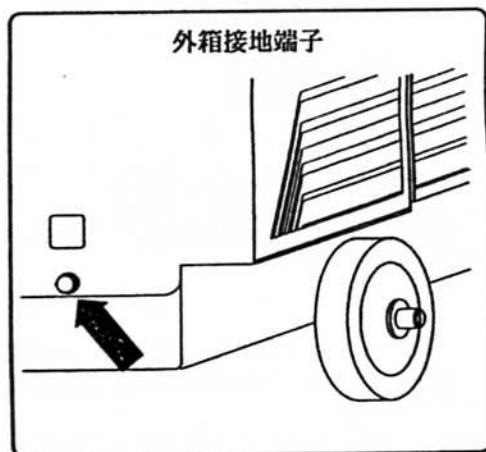
(2) 接地



接地工事をしないと漏電遮断器は働けません! 必ず実施して下さい。

① 発電機の接地

- 制御盤面の漏電遮断器用接地端子よりアース棒により接地して下さい。
接地抵抗は、電気設備技術基準による第3種接地工事をして下さい。工事後は必ず接地抵抗を測定し500Ω以下である事をご確認下さい。
- さらに発電機の外箱も外箱接地端子より同様に接地して下さい。



- 埋設を避ける場所
イ. 地下埋設物例えばガス管、水道管、地下ケーブル線等の近く。
ロ. 避雷針用接地場所から2m以内の場所。

② 負荷機器の接地

発電機の場合と同様に、負荷機器の外箱にも接地工事を施して下さい。負荷機器の接地工事、第3種接地工事で接地抵抗は500Ω以下として下さい。



発電機側の接地を行ったからといって、負荷側の接地を省く事は出来ません! 負荷側の接地は漏電を検知するために是非とも必要です。もし接地を行わないと、漏電した場合その漏電電流は、人体を流れるので大変危険です。負荷側の接地も必ず行って下さい。

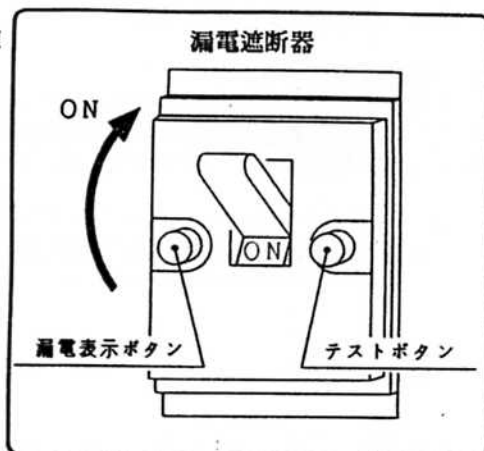


電話機用接地線とは共用できません。
人通りの多い場所に埋設する場合はリード線を確実に止めて下さい。
第1種、第2種接地線とは共用できません。

(3) 動作確認

始動点検時に漏電遮断器の動作を次の手順で確認してください。

- 発電機を取扱い要領に従って始動する。
- 漏電遮断器を「ON」にする。
- 漏電遮断器のテストボタンを押します。
(これで漏電遮断器の漏電表示ボタンが飛び出し遮断器がトリップすれば正常です。)
- リセットは、一旦遮断器を「OFF」の位置まで戻せば、再び遮断器を「ON」にできます。



万一漏電により漏電遮断器が動作した場合は、一旦発電機を停止し、漏電箇所を修理してから再び発電機を運転し漏電遮断器を再投入して下さい。

6. 運転操作

6-1 始業点検「毎日点検・補給」

始動前は必ず以下の点検をしてください。なお点検は機械を水平に置いてエンジンを停止した状態で行ってください。

6-1-1 エンジンオイル量の点検

エンジンのオイルレベルゲージを最後まで差し込み油面がF～Lレベル範囲内にあるか点検してください。

Lレベルより少ないときはオイルレベルゲージの穴より補充してください。
また、同時にオイルの汚れも点検してください。



オイル総量 : 0.9 ℓ 、 有効油量 : 0.45 ℓ



オイルを入れすぎると消費量が多くなり、オイルの温度が上がり有害になります。また、少なすぎると油圧警報灯が点灯し、エンジンが自動的に停止します。



エンジン運転中のオイルレベルゲージの抜き差しは、オイルが、レベルゲージ穴より吹き出し危険です。絶対に行わないでください。

◇ エンジンオイルの品質はSD級以上をご使用になる事をお奨めします。

※ エンジンオイルの級別（サービス区分） SD, SE, SF, SG, SH（ガソリンエンジン区分）

※ エンジンオイルの粘度選定

ご使用地の気温に最も適した粘度のオイルをご使用ください。

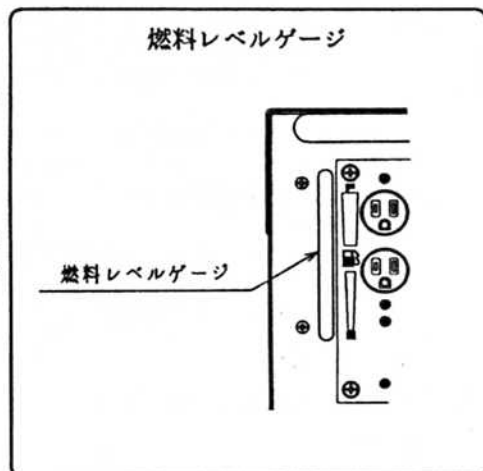
夏は夏用オイル(SAE30)、冬は冬用オイル(SAE20)を、または温度の変化で粘度の変わりにくいオールシーズン用オイル(SAE10W-30)のご使用をお奨めします。

6-1-2 燃料量の点検

燃料レベルゲージで、十分に入っているか確認してください。不足している場合には補給してください。また、燃料は、無鉛レギュラーガソリンをご使用下さい。



燃料の補給時は、火気に注意し必ずエンジンを停止して行ってください

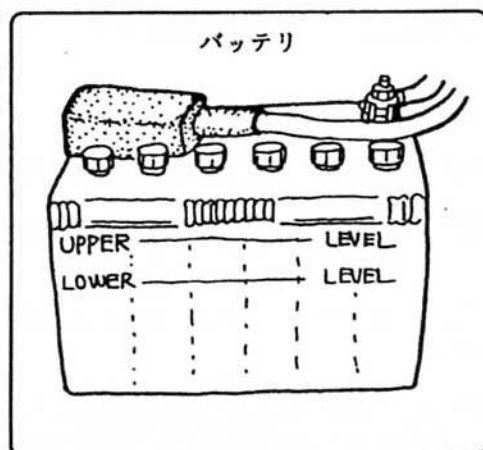


6-1-3 バッテリー液量の点検

バッテリー液面は常に規定レベル内に保たねばなりません。もしプレートが長時間空気にさらされると、酸化してバッテリーの寿命を早めますので、バッテリー液がLOWER LEVEL以下の場合にはバッテリー補充液を補充してください。

◇ UPPER LEVEL以上補給しないでください。

◇ 補給後、キャップを確実に締め付けてください

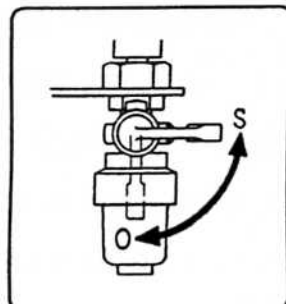


6-2 運転方法

6-2-1 始動方法

始動前には、機械周囲の安全を確認し、周囲に人がいたら合図してから始動してください。（初めてお使いになるときは、スタータスイッチを「停止」にしてバッテリーケーブルを接続してください。）

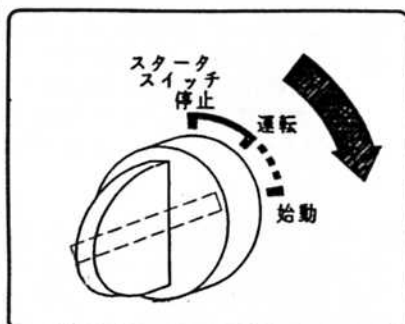
- (1) 燃料ストレーナのcockを「O」側（開側）にしてください。（燃料ストレーナはバッテリー横にあります、サイドドアを開けて操作してください）
- (2) スローダウンスイッチを「ON」にしてください。



- (3) スタータスイッチにキーを差し込み「始動」まで回すとスタータが回りはじめ、エンジンが始動します。始動したら、直ちにキーから手を離してください。キーは「運転」に戻ります。なお、寒冷時など、始動性が悪い場合は、チョークノブを引き「始動」してください。



エンジン始動後もキーをスタータスイッチを「始動」に回したままにしていると、スタータモータを損傷することがありますので、必ず「運転」に戻してください。



スタータを10秒ほど回転させてもエンジンが始動しない時は、いったんスタータスイッチを「停止」にして30秒以上休止してから再度行ってください。繰り返し行っても始動しない場合は、何らかの異常によるものと考えられますので次の項目を点検してください。

- 燃料不足
- 燃料ストレーナコックの開け忘れ
- 燃料ストレーナの目詰まり
- エアフィルタの目詰まりなど



- (4) エンジンが始動したら、アイドリングの状態ですら5～10分程度の暖機運転を行ってからご使用ください。



暖機運転は、必ず行ってください。また、暖機運転中にエンジンや発電機からの異音や異常振動、オイル・燃料の漏れを点検してください。

6-2-2 停止方法

- (1) 遮断器を「OFF」にしてください。
- (2) スローダウンスイッチを「ON」にしてエンジンを低速回転で、約5分間冷機運転してください。
- (3) スタータスイッチを「停止」に回しエンジンを停止させてください。

6-2-3 非常停止装置

本機には、低油量非常停止装置を備えています。

本装置は、エンジンオイルが規定値以下に低下すると、警告灯が点灯しエンジンが自動停止しエンジン停止後警告灯は消灯します。非常停止後は、オイルの量を点検し、必要量を補給してください。ただし、オイルが規定量入っているにもかかわらず停止した場合は、他に異常があります。

6-2-4 機械の異常

以下の異常が発生した場合は、速やかにエンジンを停止し、当社サービス工場へご連絡下さい。

- ① 異常に排気ガスに黒煙や白煙が含まれる。
- ② オイル、燃料、排気ガス等の漏れ。
- ③ エンジン、発電機その他から異音がでる。
- ④ 発電機、機械内部の部品、配線などから異臭、煙がでる。
- ⑤ オイルを補給しても非常停止装置が解除されない。

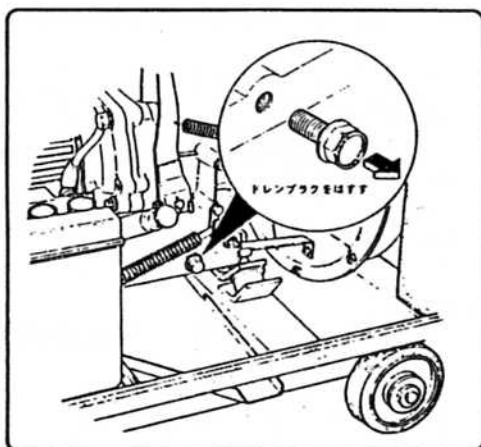
7. 定期点検と整備

機械をいつも調子よく使い、長持ちさせるには、日常の手入れが大切です。点検整備項目、点検時間は、以下を参考に励行してください。（詳しくはエンジン取扱説明書をご覧ください）

7-1 エンジンオイルの交換

初 回	20時間運転後に交換
第2回以降	50時間運転毎に交換

- ① エンジンが暖かいうちに、ドレンプラグを外しエンジンオイルを抜出します。
- ② 新しいエンジンオイルを入れる時は規定レベルに給油後、オイル洩れがないことを確認し数分間エンジンを運転し、エンジンを停止してから10分程度おいた後にオイルレベルを再点検し、不足の場合は補給してください。



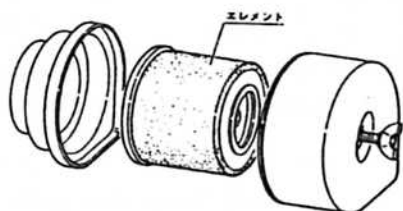
7-2 エアクリーナエレメントの清掃・交換

清 掃	50時間毎
交 換	250～300時間毎

- ① エアクリーナの蝶ボルトを緩めてフタを外し内部のエレメントを取り出します。
- ② 内部から空気を吹き付けるか、枠板を手で軽くたたいてほこりを落としてください。強くたたきすぎると破損する場合があります。
- ③ エレメントを清掃・交換後、フタを蝶ボルトで固定します。



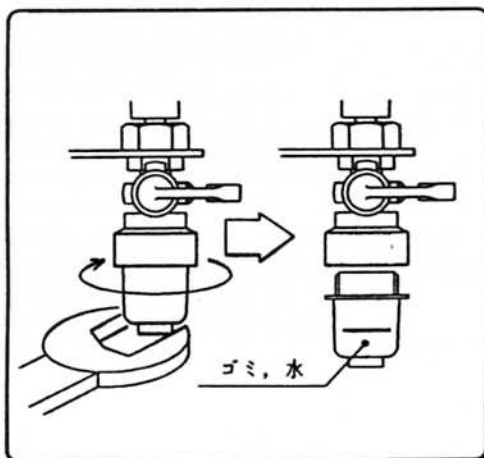
注意 特にはこりの多い場所で使用するときには状況に応じて、早めにエレメントを清掃・交換して下さい。



7-3 燃料ストレーナの清掃

清 掃	200時間毎
-----	--------

- ① 燃料ストレーナコックを閉「S」側にします
- ② 燃料ストレーナカップをスパナで緩め、カップを外します。
- ③ ストレーナカップを洗浄します。



7-4 燃料タンク内のドレイン排出

燃料ストレーナカップを外し、ストレーナコックを開「O」にしてタンク内の不純物を排出してください。(燃料受け皿を用意してください。)

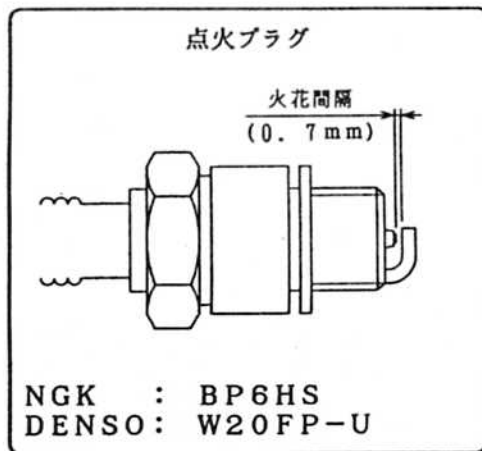
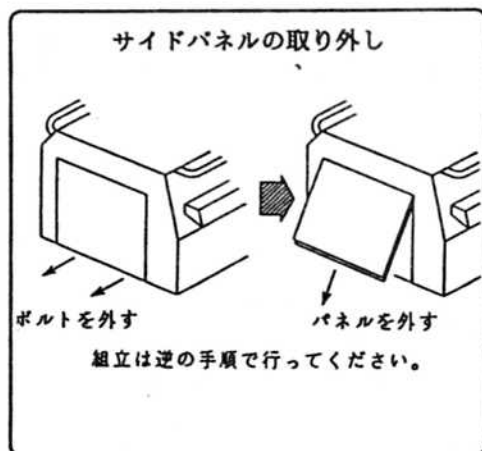
7-5 点火プラグの点検

清掃 100時間毎

- ①機械横下部のボルトを外し、サイドパネルを取り外し点検します。
- ②電極付近に付いたカーボンをプラグクリーナまたは、ワイヤブラシ等で清掃してください。(ヤスリ等は使用しないでください。)
- ③火花間隔を0.7mmに調整してください。

危険! プラグは非常に高温となりますので。エンジンが冷えているときに点検してください。

危険! 点火プラグは必ず、指定の物を使用してください。エンジン故障の原因となります。



7-6 バッテリー比重の点検

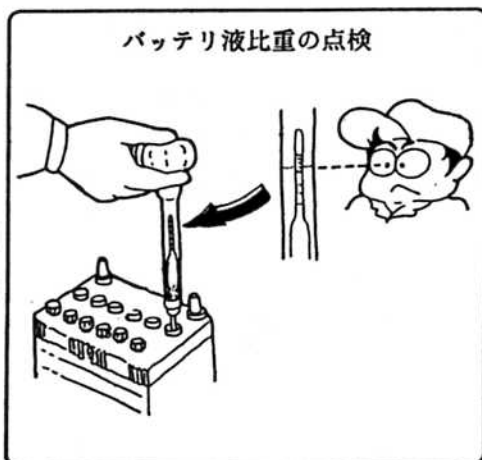
点検 50時間ごと

エンジンの始動不良などでバッテリーの放電が考えられるときは、各セルのバッテリー液の比重を測定して、充電不足の場合は補充電をして下さい。

表5 バッテリー液の比重と充電状態の関係

比 重	充 電 状 態
1.28 超え	過充電
1.28 ~ 1.25	良好
1.25 ~ 1.24	ほぼ良好
1.24 未満	充電不足

危険! バッテリーを外す時は、必ず(－)側の端子から外し、取付時は(+)、(－)を間違えないように(+)端子から取り付けてください。



7-7 その他の点検整備

(1) ゴムパイプの交換

ゴムパイプが劣化していたら交換してください。
(通常2000時間または1年)

(2) 吸音材の交換

吸音材の著しい汚れ又は剝離(油分の付着)などがありましたら交換してください。

7-8 主要点検項目一覧

表6 主要点検項目

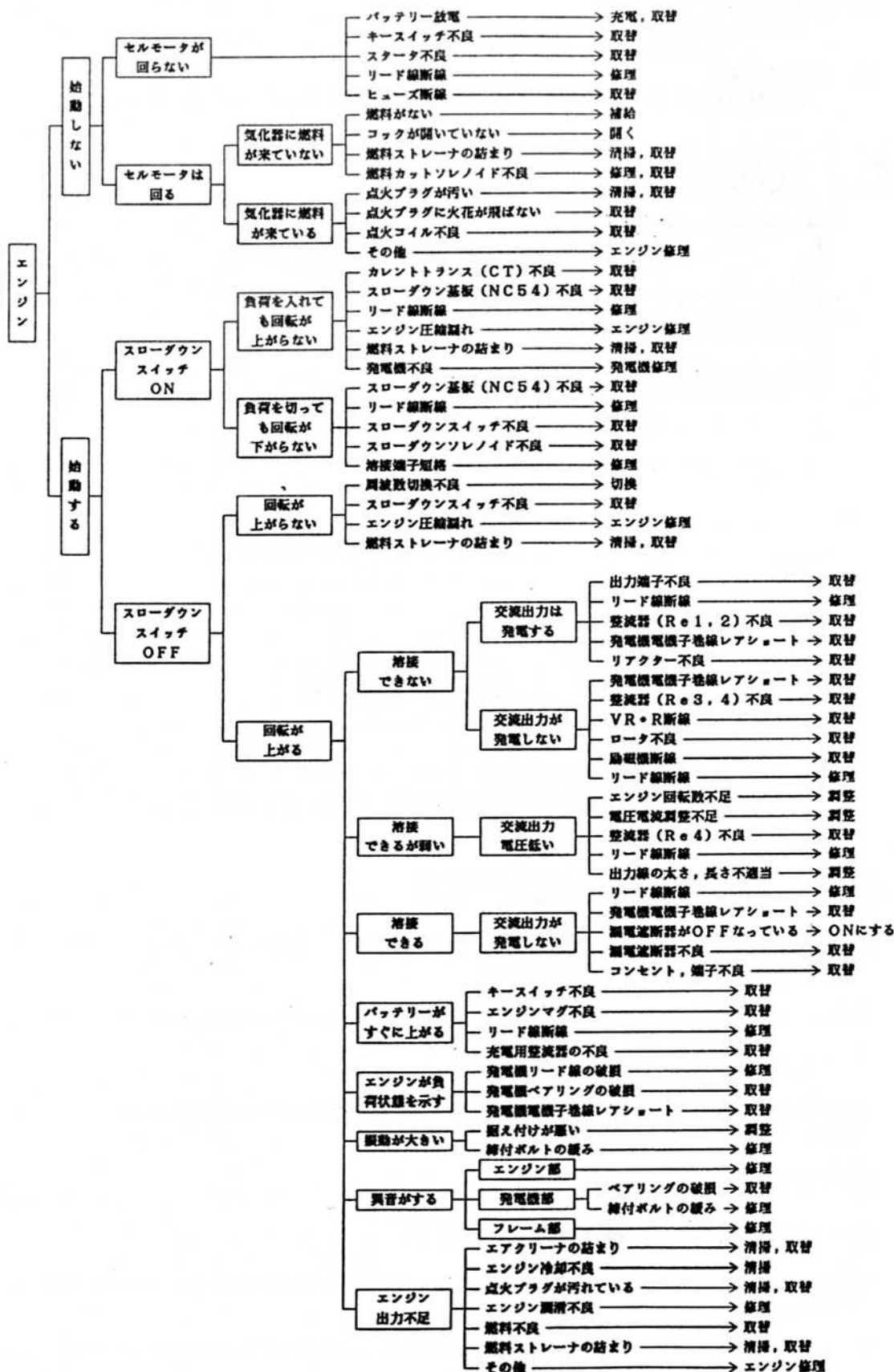
項 目	8 時間毎 (毎日)	20 時間毎	50 時間毎 (毎週)	100 時間毎	200 時間毎 (毎月)	500 時間毎
各部ボルトナットの点検締付	○					● ヘッド ボルト
エンジンオイルの点検補給	○					
エンジンオイルの交換		1回目 ○	2回目 以降 ○			
油漏れの点検	○					
エアフィルターの清掃, 交換	ほこりの多い場所 : 毎日 普通の場所 : 50時間毎 (ただし、5~6回清掃で交換)					
燃料ストレーナの清掃					○	
点火プラグの点検, 清掃				○		
吸排気弁の隙間調整					●	
吸排気弁座の点検すり合わせ						●
エンジンオーバーホール						●
整流器冷却フィンの清掃	ほこりの多い場所では早めに○					
バッテリー液の点検, 補給	○					
バッテリー比重の点検			○			
シリンダーヘッドの清掃						●
気化器, 燃料タンクの清掃					○	

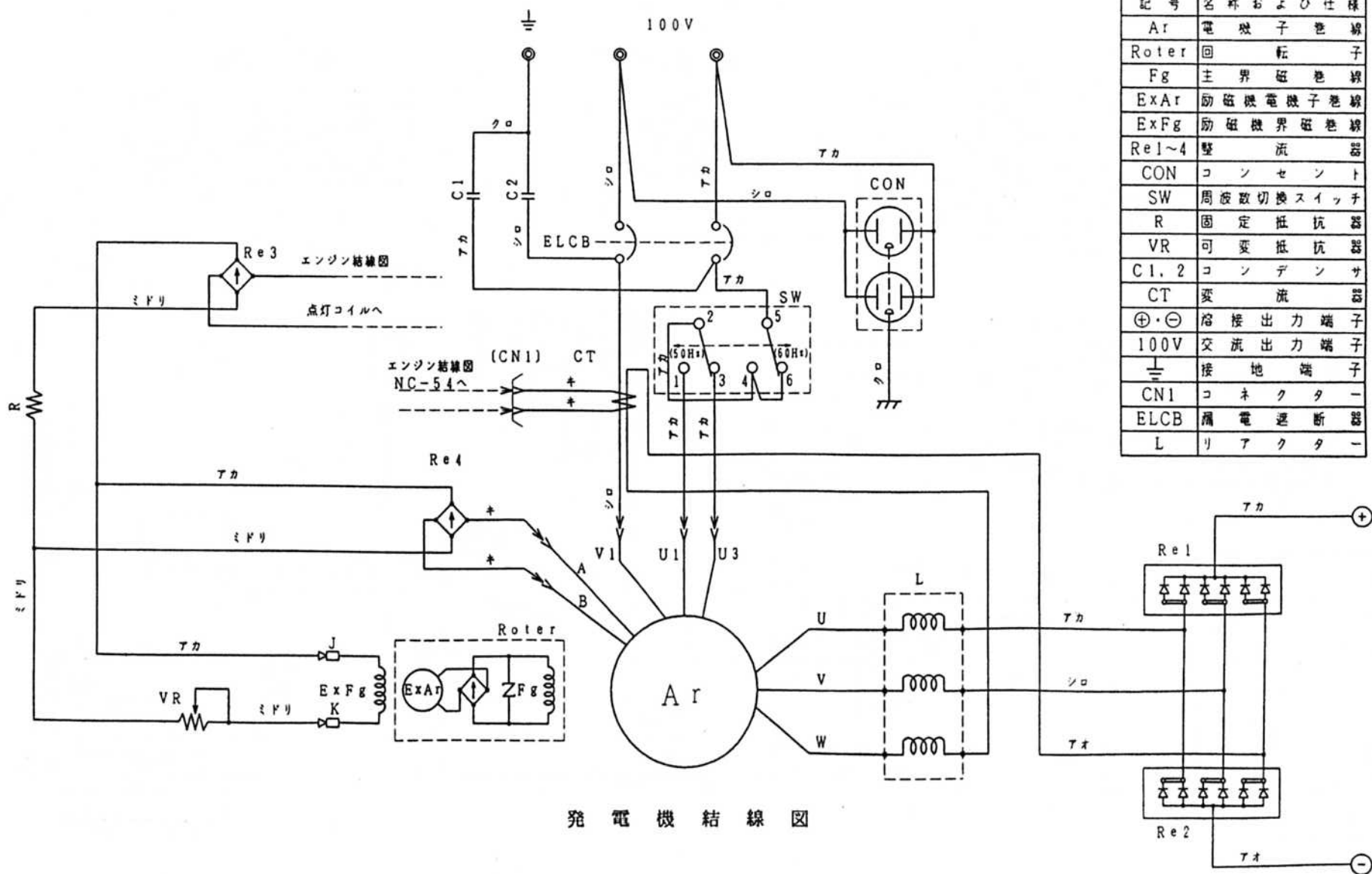
(●印は、弊社営業所または、指定サービス工場にご依頼ください)

8. 長期間使用しないとき

- ① 点火プラグを外し、オイルを数滴たらし、数回クランキングしてシリンダー内へオイルをいきわたらせ、点火プラグを取り付けてください。
- ② チョークワイヤ、スロットルケーブル等、光っている部分にグリスを塗って錆を防いでください。
- ③ エンジンオイルを、新油と交換してください。
- ④ 燃料タンクの燃料を抜き取り、気化器のドレーンを緩めて気化器内の燃料も全て抜き取ってください。
- ⑤ エアクリーナエレメントの汚れを清掃してください。
- ⑥ バッテリー端子の(-)側結線を外してください。
- ⑦ 機械内部及び、外部の汚れを清掃し、湿気やほこりの少ない雨風の当たらない場所に保管してください。
- ⑧ バッテリーを長く放置すると、自然放電しますので、1ヶ月に1回程度充電してください。

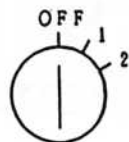
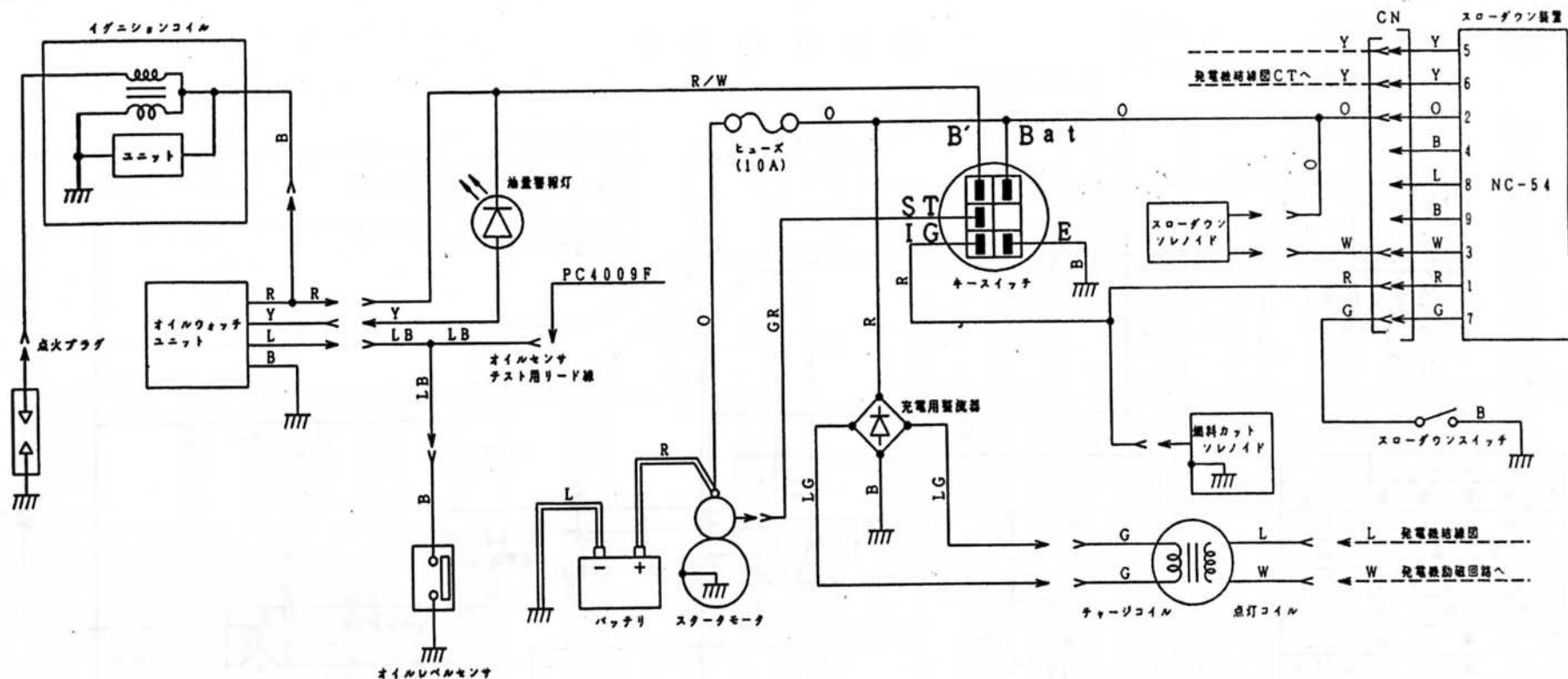
9. 各部の故障原因と対策処置





発電機結線図

記号	名称および仕様
Ar	電機子巻線
Roter	回転子
Fg	主界磁巻線
ExAr	励磁機電機子巻線
ExFg	励磁機界磁巻線
Re1~4	整流器
CON	コンセント
SW	周波数切換スイッチ
R	固定抵抗器
VR	可変抵抗器
C1, 2	コンデンサ
CT	変流器
⊕・⊖	溶接出力端子
100V	交流出力端子
⏏	接地端子
CN1	コネクタ
ELCB	漏電遮断器
L	リアクター



	OFF	1	2
OFF	○	○	○
1	○	○	○
2	○	○	○

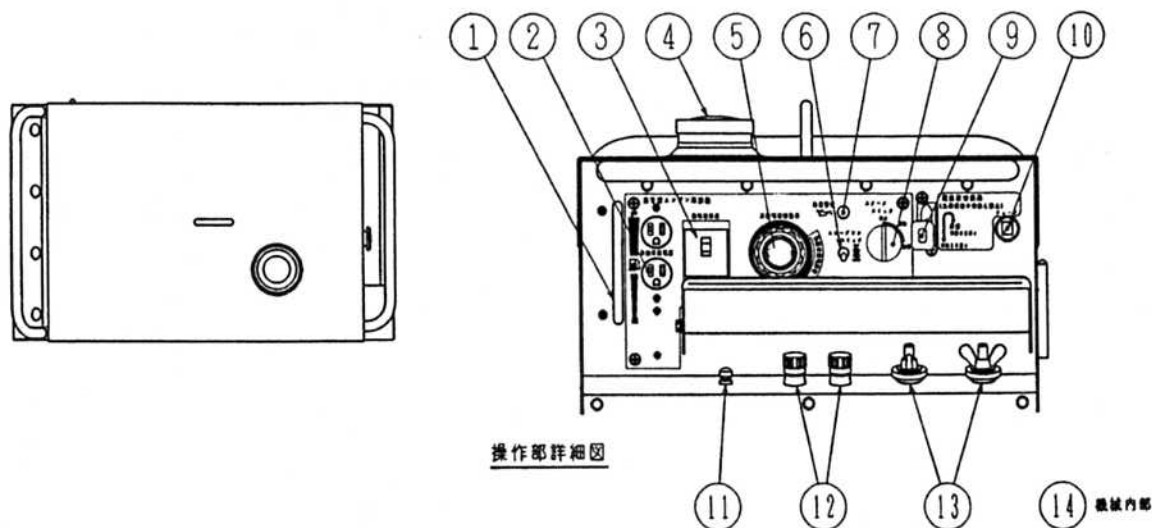
キースイッチ接続表



コネクタ配列 (配線側視点)

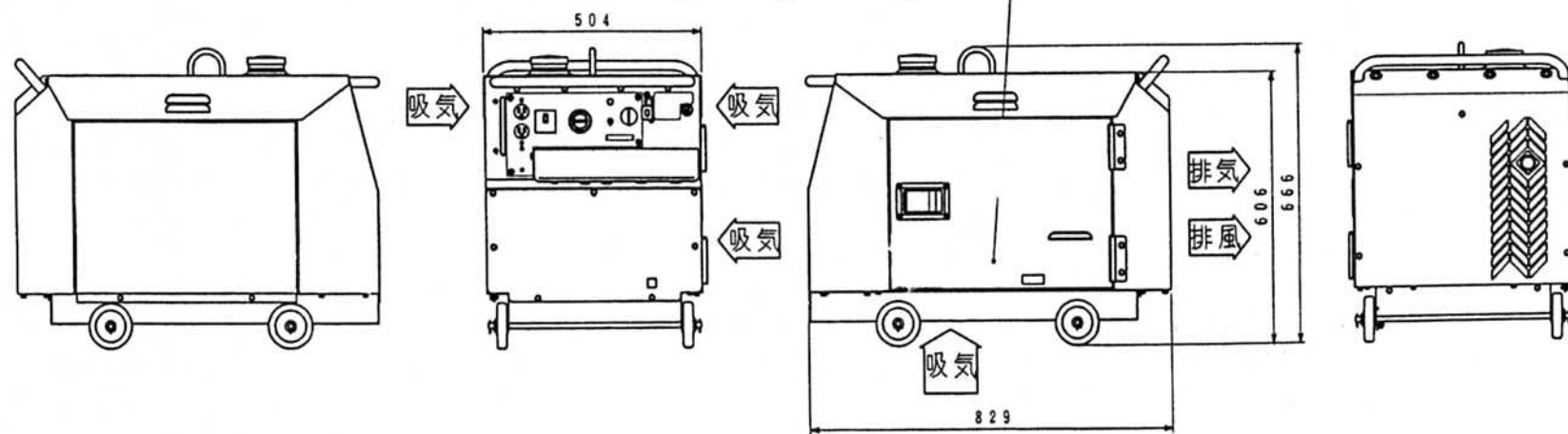
記号	記号	記号	記号
B BLACK	黒	R RED	赤
L BLUE	青	W WHITE	白
BR BROWN	茶	Y YELLOW	黄
G GREEN	緑	LB LIGHT BLUE	水色
GR GRAY	灰	LG LIGHT GREEN	若草色
P PINK	ピンク	O ORANGE	橙

エンジン結線図



操作部詳細図

番号	部品名称
1	燃料ゲージ
2	単相交流出力コンセント (15A x 2)
3	漏電遮断器
4	燃料タンク (7.5ℓ)
5	溶接電流調整器
6	スローダウンスイッチ
7	油量警報灯
8	スタータスイッチ
9	周波数切換器
10	チョークノブ
11	漏電遮断器用接地端子
12	単相交流出力端子 (32A)
13	溶接出力端子
14	燃料コック



乾燥重量 約 135 kg

エンジン (クボタ) GH-280DG

外形図

この製品は、一貫した品質管理のもとに組立てられ、
厳密な検査に合格した製品です。万一の故障の場合、
その他取扱上ご不明な点があった場合には、ご遠慮な
くお買上げの販売店、またはリョービパワーツール取
扱販売店もしくは最寄りのリョービ販売(株)営業所
にお問い合わせ下さい。

発売元

リョービ販売株式会社

リョービ株式会社